

6/28・29

松江城天守国宝10周年記念事業

特別版

お城EXPO in 松江

松江まちかど

ダイアリー



まつえ時代案内人
によるお出迎え



五城サミット（勝ち鬨をあげる様子）



松江城ブース



松江城ブース着付け体験



しゃちほこ展示



ステージイベント

毎年横浜で開催される国内最大級のお城イベント「お城EXPO」。

松江城天守国宝指定10周年を記念し、松江で特別版を開催しました。

お城の専門家による講演やトークイベント、各自治体の出展ブースなど、多彩なプログラムにより、来場した多くのお城ファンが全国各地のお城文化に触れ、大盛り上がるのイベントとなりました。

市報

松江

目次

- 02 松江市PRキャラクター（ゆるキャラ）の名前が決定！
- 04 松江まちかどダイアリー
- 05 松江市長 上定昭仁とおまつちえの「上を向いていこう」／まいぶんTIME
- 06 安居楽業／シリーズ松江の文化力×未来
- 07 松江の皆さんこんにちは。／マイレポート
- 08 自然災害に備えて！台風のはじめよう！
- 09 医療機関には、それぞれの役割分担があります
- 10 空き家バンクに登録しませんか 家財処分補助金のご案内
- 11 あなたの住まい、大丈夫ですか？／ひきこもり専門相談
- 12 12回特別弔慰金の請求を受け付けています
- 13 フレイルを予防し健康寿命を延ばしましょう
- 14 良い睡眠のためにできることから始めよう（こども編）
- 15 6年度下期松江市公営企業の経営状況／公共施設適正化計画進捗状況
- 16 子育て・健康・福祉
- 18 できていますか？食中毒予防／松江市公式LINE友だち募集中！
- 19 情報ひろば
- 25 でかけてほしいイベント情報～

松江市ホームページ



防災メールに登録しましょう。
QRコードを読み取って、
空メールを送ってください。



商標について：QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



松江市長 上定 昭仁 と おまっちえの

上を向いて いこう

Vol.46



「松江市のゆるキャラ」おまっちえ」お披露目です！」

今年、新松江市が誕生して20周年、松江城[▲]が国宝に指定

されて10周年の節目を迎えたのを契機に、本市の新しいPRキャラ

クター（ゆるキャラ）を募集しました。そのデザインに714

件、愛称に2,681件と、とてもたくさんのご応募をいただきました。ありがとうございます

😊

そして、キャラクターのデザインはえちがわのりゆきさん、愛称は佐藤祐子さんの作品に決定しました！

優しくにこやかな表情を浮かべ、お城の瓦屋根としじみを頭にかぶり、宍道湖の夕日と抹茶[●]

が思い出される緑色のTシャツを身に付けた、ふんわりしたキャラクター。名前は「おまっちえ」で、「お抹茶」と「まっ・ちえ」を語源

に松江の「茶の湯文化」をアピールします（ネーミングの由来は諸説あります）。

「おまっちえ」の出身は宍道湖。見た目のとおり、おだやかで優しい性格です。趣味は、野点（の

だて）、つまり屋外でお茶を点てることですね。宍道湖でしみじみするのが日課なので、湖畔に

行けばしみじみしている「おまっちえ」に出会えるかもしれませんよ。好物は、たくさんありすぎてひとつに絞れず困っているみたいです。

今はまだイラストの2次元ですが、今後ぬいぐるみや着ぐるみも登場する予定ですのでご期待ください😊イベントなどにも出演して、松江を盛り上げます。

だれにも愛される「おまっちえ」になるように努めてまいりますので、末永くかわいがってくださいね！みなさんの応援をよろしくお願いします😊

※本誌2、3ページでも「おまっちえ」を紹介しています。ぜひご覧ください。

おまっちえのイラストの2次元ですが、今後ぬいぐるみや着ぐるみも登場する予定ですのでご期待ください😊イベントなどにも出演して、松江を盛り上げます。



まいぶんTIME

2025年は松江城天守国宝指定10周年！

Vol.24 松江城の石垣刻印

松江城の石垣には、中四国地方にある江戸時代のお城では最も多くの刻印があります。刻印とは、石垣の石にノミを当てて文様を刻んだもので、家紋や幾何学文様がよく見られます。

松江城内には、堀尾氏の家紋である分銅文^{ぶんどうもん}の刻印が集中している場所があるのをご存じでしょうか。この場所は、大手門から天守に登る階段に面した北側にある松江城築城期の石垣（中曲輪南端石壁^{なかつまがし}）で、東・南・西の3面の石材に分銅文の大形刻印が15個も刻んであるのが特徴です。分銅文の刻印はこの石垣に集中していて、天守へ向かう目立つ場所に分銅文の刻印を施すことで、松江城が堀尾氏のものであることをアピールしているのです。

松江城では約1,000個の石垣の石に28種類の刻印が確認されてるよ♪探してみてね！



田和山遺跡キャラクター
TAWAYAMAN



〈分銅文が集中する石垣〉

【問い合わせ】埋蔵文化財調査課 ☎55-5284

地域おこし協力隊の

あん きょ
安居 楽業
らく ぎょう



〈市HP(地域おこし協力隊)〉

vol.6



それぞれの「なんかいいかも」

こんにちは！協力隊9期生の森山です。15年ぶりに松江にUターンし、2年目を迎えました。

以前はジュエリー販売の仕事をしていて、来店したときよりワクワクしながら帰るお客様の姿をみるのがすごく好きでした。暮らしの中で少しでも充実した気持ちになると自然と元気が出たり、一歩踏み出せたりするのを間近で見て感じ、その楽しさをもっと広くいろんな人と共有できたらと思うようになりました。

同時に松江の文化や歴史、自然の豊かさなどを前より「いいな」と感じるが増え、何よりそれぞれに熱い想いを持った人がめっちゃ多い！と気づきました。その半面、島根・松江を知らない人も多く「松江の魅力と暮らしの中の小さな気づきやワクワクを伝えたい」と思うようになったとき、地域おこし協力隊に出会い、応募しました。

モノや体験、人との関わりを通して松江の魅力や暮らしの中の小さなワクワクを伝えられるよう、まずは松江を知ることから始めました。そんな中での出合いの一つが海洋プラスチック

です。

Uターンして一番印象的だったのは島根半島の海へ透き通っていても綺麗で、珍しい地形や歴史との関連性に惹かれました。一方で、漂着ごみの多さにも驚きました。このギャップも含めて楽しく伝えたい！と思い、流れ着いたプラスチックを使った雑貨やアクセサリーづくりのワークショップをしている方とつながり、一緒に活動をしています。

ほかに、高齢の方のデジタルギャップを埋めるお手伝いでスマホ相談会を開催したり、モノや体験から始まるきっかけづくりに取り組んでいきます。

そして活動の中でも想いをもった魅力的な人との出会いはばり！

挙げるとキリがないのですが協力隊も今年10年目で8割以上がそのまま松江に定住しています。一人一人松江の見方や関わり方が違っていて、協力隊の活動を追うだけでもヒト・モノ・コトがたくさん見えてきます。

引き続き松江の魅力と松江の暮らしの中の小さな変化や



〈海洋プラスチックを原料としたパーツ〉



〈スマホ教室の様子〉



〈Instagram(地域おこし協力隊)〉

9期生

もりやま 森山 友美

気づきを自分の目線からいろんな形でお伝えし、誰かにとっての「なんかいいな」「行ってみたい、やってみよう」につながるきっかけづくりをしていけたらと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いします。

シリーズ「松江の文化力×未来」

松江の文化力の次世代を担う人をご紹介します！

Vol.21



はやし ひろき
林 宏樹

松江市片原町出身。
人生のモチベーションは「髻行列」。
将来は実家のレストラン西洋軒と、町内の髻保存会若頭、両方の4代目/二刀流をめざしたいと意気込む。

松江祭髻行列は、屋根付の山車(だし)屋台に据えられた髻と呼ばれる太鼓を、笛やチャンガラのお囃子(はやし)に合わせて打ち鳴らし、屋台の綱を引いて市内中心部を行列するもので、松江の秋の風物詩となっています。

私の生まれ育った東片原町では、髻の文化が根付いています。髻行列の時期に練習場所となる京橋川に架かる幸橋は、松江城やカラコロ工房を望む絶景スポットでもあり、行き交う観光客が練習に飛び込み参加するなど、大変な賑わいとなります。

私は2歳の頃、髻台の綱を引く役割で髻行列デビューして以降、髻に夢中になりました。また、中学2年生の時に、初めて髻を叩いて練り歩くことを任せていただきましたが、その時の喜びや興奮、観衆の声を聞きながら練り歩いた景色は、今なお忘れられません。

私が思う髻行列の魅力は「一体感」であり、まさに東片原町髻保存会が得意としているところだと思います。そのゆえにあるオリジナル楽曲「わっしょい」は、観衆を巻き込む唯一無二のパフォーマンスと



〈髻行列の様子〉

このように厳しい状況ではありますが、私は東片原町の髻を守っていくと決意しています。それは、私たちに髻を指導してくれた先代会長の「次世代に繋ぐ」想いを守ることもあります。

現在、私は、保存会の総務委員として町外参加者への「おもてなし指導」に取り組む傍ら、より髻を楽しんでいただくにはどうすべきか、日々模索しています。

これからも髻を楽しむことを念頭に、東片原町の髻の音を松江の街に響き渡らせたいと思います！

松江の皆さん こんにちは。



さか い しょう ぞう
酒 井 祥 三

1960年6月生まれ。津田小学校、第四中学校、松江南高校、神戸大学建築学科卒業。西松建設株式会社に入社。現場を20年経過後、支社・本社にて営業・管理を担当。2025年6月退職。

この6月で42年間務めた会社を退社し、さてこれからどうしようと考え始めたまさにこの時期に当寄稿の依頼を頂きました。

私は、両親ともども石見の出身で、小学4年の時に父親の転勤で松江に來たため、チャキチャキの松江っ子ではありません。そのうえ高校を出てからは関西が長く、ねつとりとした関西弁に上塗りされ、五十を過ぎては東京にも十年おりましたが、不思議と松江に帰ると気持ちが和らぎすぐに雲弁に戻ります。松江を離れて半世紀が過ぎようとしておりますが、この安らぎを求めて益々には欠かさず帰省し、外では松江が一番とあちこちで吹聴して回っているのは、私にとって松江がかげがえのない故郷になっているからなのだとつくづく思います。と同時に、今までこの故郷のために何も役に立てて来なかったことに申し訳なさも最近を感じております。

そんな中、私のサラリーマン人生最後のこの一年半は唯一松江市とかかわることができました。市が2020年に「ゼロカーボンシティ」を表明され、2023年に「脱炭素先行地域」に選定された頃に合わせ、政府が地方創生のために旗を振る「企業版ふるさと納税（人材派遣型）」の制度を松江市では初めて利用させてもらい、私のいた会社から人を派遣し、市の脱炭素の取り組みに対し微力ながらもお手伝いをさせていたことができたのです。派遣に際しては、私が松江出身ということもあり、市長、副市長をはじめ市関係者の方々の温かいご指導を賜り、会社とのパイプ役を無事に果たせたことに對してもこの稿をお借りし改めて深く感謝申し上げます。

これからの私のことだけでなく、大切な故郷にどんな恩返しができるのかも、ゆっくりと考えてみたいと思います。

近畿松江会にご入会ご希望の人はご連絡ください。

〒543-0014 大阪市天王寺区玉造元町2-34 東洋軒ビル4階 竹谷設計事務所内 近畿松江会事務局 ☎090-3054-9159（竹谷）

まちをよくする マイルレポート

手話は言語である

NPO法人松江市聴覚障害者協会 理事長

なが はら のぶ ひさ
永原 延久



松江市聴覚障害者協会は聴覚障がい者の当事者団体として昭和27年に発足し、平成26年に特定非営利活動法人格を取得しました。聴覚障がい者の社会参加に不可欠な情報取得、コミュニケーション保障のために手話奉仕員の養成、市民への手話の普及・情報提供、行政への働きかけ、地域のろうあ者への相談・支援などが主な活動です。

今後の課題は、地震や大雨などの災害が起きた時に、ろうあ者が孤立しないための情報保障と支援です。避難所では、常に手話通訳がいるわけではないの

で、暮らせる共生社会の実現をめざして、手話は言語であること、手話への理解と普及、聴覚障がい者への配慮と理解を広めるためにさらなる活動を続けていきます。

今後の課題は、地震や大雨などの災害が起きた時に、ろうあ者が孤立しないための情報保障と支援です。避難所では、常に手話通訳がいるわけではないの

当協会では、市と協働して、手話出前講座も行っていますので、市民や企業団体の皆様もぜひ活用ください。



〈手話言語条例可決時の写真〉

＼出前講座の申込はこちらから／



〈市HP(手話出前講座)〉